

第4回 松蔭読書会 2015年9月1日(火)

# 『不思議の国のアリス』

今回は、前回の投票で惜しくもやぶれてしまった『不思議の国のアリス』です。(今回の投票ではいちばん多く票が入りました!)

本当なら、7月の終業式の日実施予定でしたが、あいにくの台風にみまわれ、延期に...夏休み明けの本日、待ちに待った開催となりました。

14時より、読書会スタート。今回の参加者は、中学3年生の生徒6名、卒業生1名、大学の中西先生、司書4名、全部で12名でした。

今回の作品にちなんだお菓子作りは、『アイシングクッキー』(クッキーの上に砂糖と卵白で出来たクリームでデコレーションをほどこしたクッキーのことです)中学3年生の生徒が今回はたくさん参加してくれました。はじめてのアイシングに悪戦苦闘しましたが(アイシングってとってもむずかしいんですね!)

たのしいカラフルなクッキーがたくさんできあがりました。読書会のあと、紅茶と一緒に、アリスのお茶会をひらきました。ちょっぴりにぎやかな、でもとてもたのしいお茶会になりましたね。

## 自己紹介と感想

- ・わたしもアリスのワンダーランドに行ってみたい。楽しそう。
- ・お茶会が楽しそう。
- ・おちていく瞬間、不思議の国へ行くところが、ファンタジー的でとても好き。おもしろくて楽しそう。
- ・意地悪(少しサド?)なハートの女王がよかった。
- ・アリスは骨が折れないのかなぁと読んでいて思った。
- ・赤い目のウサギが持っている懐中時計がかっこよくて、憧れている。
- ・ことばあそびや『わたくしは自分が食べているものが見える』ということと、『わたくしは自分に見えるものを食べ』ということは、どちらもおなじだということになる。(『ジュニア版 世界文学の玉手箱5 不思議の国のアリス』(河出文庫)ルイス・キャロル著 河出書房新社 1998年より)の部分が気に入っている。
- ・いま読むと、面白くない。真面目に読んでしまう。とてもナンセンスな世界。しかし、アリスについていろいろなことを調べるのはおもしろい。アリスと登場人物とのかけあい、三段論法がおもしろくて好き。
- ・アリスのひとりごとがとても印象的。
- ・久々に読んだ。地の穴の中でのスピード、アリスが大きくなったり、小さくなったりするスピードがこんなにもゆっくりだったとは。そんななかでアリスは成長していき、また読み手も成長していく、好きになっていく。
- ・アリスの理屈っぽさ、呼ばれてもいないお茶会にググッと入っていく様。アリスはとても好奇心旺盛。(勇気があるのか? はたまたおばかさんなのか?)最後の裁判のところでは、成長もうかがえる。アリスは素直、かわいいというよりは、子ども独自の、子どもだからこそその好奇心をもった子なのかなと感じた。
- ・アリスは大きくなったり小さくなったりし、泣いているシーンもいくつか出てくるが、とまどっているようで、ほんとはとまどっていないんじゃないか、あきらめないし、弱くない。泣いているが、いつまでもめそめそせず、自分で考えてつきすすんでいく、むしろ楽しんでいるところが好き。
- ・挿絵を描いたひとによって、アリスの雰囲気や年齢が全然ちがう。テニエルかラッカンの絵がすき。
- ・アリスは自分で自分に言い聞かせている。ためらいもせず、なんでもたべてしまうのがすごいなと思う。